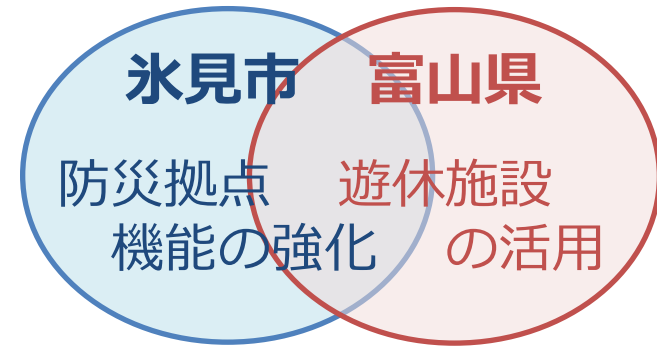


富山県 氷見市 (ひみし)

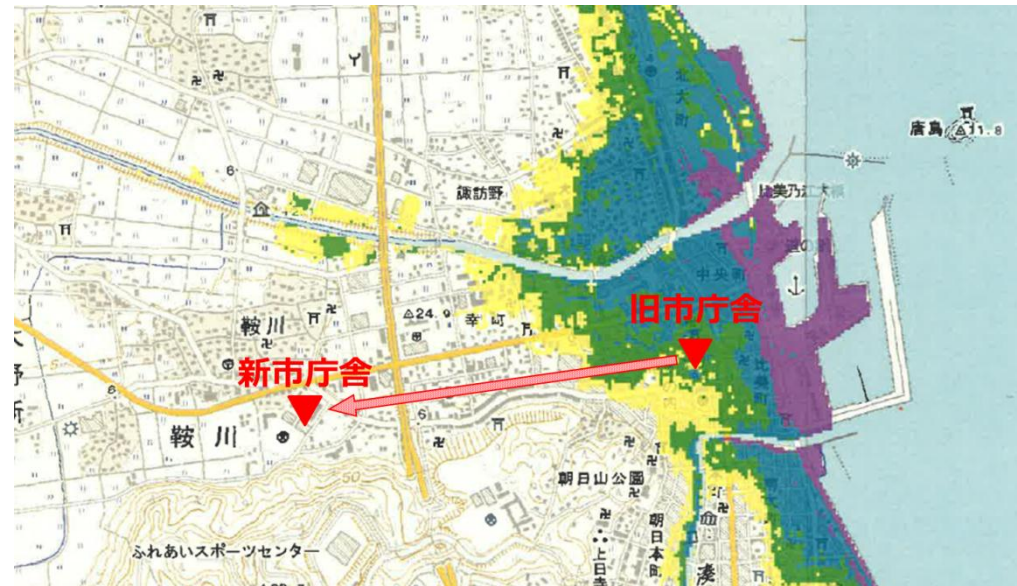
「市庁舎の移転と庁舎活用におけるFMの実践」

旧県立高校校舎・体育館を改修し、平成26年5月に氷見市の新しい庁舎が整備されました。これにより、防災拠点機能が確保されるとともに、県の遊休施設の活用問題も解消されました。また、その整備手法のみならず、**検討過程や整備完了後においても、FMの視点による取り組みが多く盛り込まれています。**

県立高校校舎・体育館 ⇒ 市庁舎



氷見市役所本庁舎 (平成26年5月開庁)



津波シミュレーション調査結果 (平成24年3月 富山県)

(実践1) 県・市の枠を超えたFMの推進

取り組み

狙い・効果

県立高校（体育館・校舎）を 市が庁舎として利活用



- ▶ 建て替えに比べ、約18億円という大幅なコストダウンが図られました。（29.6億円→11.1億円）。
- ▶ 所有者である県にとっても、遊休施設の売却や、維持管理経費の皆減など、財政的に大きな効果をもたらしました。

(実践2) 庁舎移転を通じた職員・市民へのFM意識の浸透

取り組み

狙い・効果

職員・市民による庁舎づくり 「市民ワークショップ」の開催



- ▶ 庁舎づくりへの意見を取り入れる「市民ワークショップ」を職員自らが運営し、市庁舎のあるべき姿に関する議論を肌で感じることにより、FMの有効性・必要性を学びました。また、その議論を通じ、市民レベルでのFMに対する意識改革がもたらされています。

(実践3) 「旧体育館」の強みを活かした利便性の向上

取り組み

狙い・効果

ワンフロアサービスの実現や 分散している庁舎の集約など



- 旧体育館の大空間を活かし、市民利用の多い窓口をすべてワンフロアに配置
 - 整備以前には、別庁舎に配置されていた部署を、新庁舎に集約
 - 広い駐車場を確保し、旧庁舎での駐車スペースの不足問題を解消
- ⇒利用者の利便性の向上が図られました。

(実践4) 市庁舎を観光スポットへ ～市内経済活性化の起爆剤～

取り組み

狙い・効果

観光スポット「体育館庁舎」 への見学・視察の受入れ



- 市庁舎見学を市内観光へと繋げ、交流人口の拡大や市内経済活性化の起爆剤となることを期待するものです。
- 開庁以来、見学・視察者数は、2,300人に上り（H26.12末現在）、今後は行政視察などがさらに増えることが見込まれます。